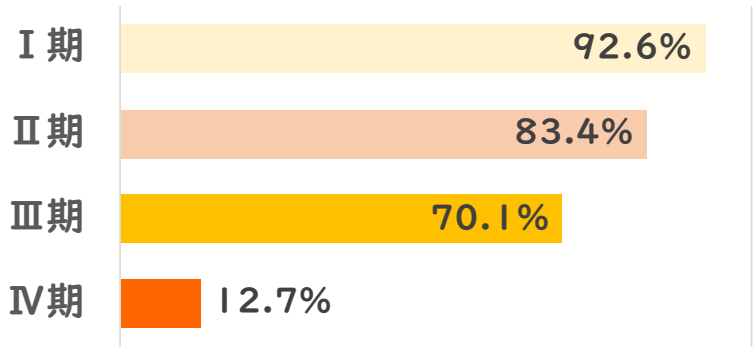
# 大腸がん検診で「要精密検査」となった方へ

一生涯のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group

**早期の大腸がんは自覚症状がほとんどありません。「要精密検査」と判定された場合は**
**必ず精密検査（大腸内視鏡検査）を受けてください。**
**精密検査を受けないと、がん検診の効果はなくなってしまいます。**

**大腸がんの死亡数は**
**女性１位※、男性３位ですが、**
**早期発見・早期治療で**
**９割以上が治ります**
※2020年の順位「がんの統計2022年 」

**大腸がん10年相対生存率**




令和３（2021）年 12 月 国立研究開発法人 国立がん研究センター
がん対策研究所 がん登録センター院内がん登録 2009 年 10 年生存率集計

## 【大腸がんの精密検査】

- 精密検査の方法は「**大腸内視鏡検査**」になります。（内視鏡が困難な場合等には大腸CT 検査あるいはS状結腸内視鏡と注腸エックス線検査の併用することもあります。）
- 精密検査として再度便潜血検査を行い陰性となったとしても、「大腸がんがない」とは限りません。**必ず内視鏡検査等による精密検査を受けてください。**
- 検査の際、食事、水分、日頃服用中のお薬、当日の車の運転などの制限がありますので、詳しくは予約の際に医療機関にお尋ねください。
- 要精密検査となった方の中で、がんが発見される確率は約3%*で、ポリープがある確率は約25%**です。

*厚生労働省「平成27年度地域保健・健康増進事業報告」 **一般社団法人日本消化器がん検診学会「平成26年度消化器がん検診全国集計資料集

＜精密検査の際には以下のものを忘れずにご持参ください＞
- 大腸がん検診結果通知書（健康診断結果通知書）
- 健康保険証